

数列の和

数列 $\{a_n\}$ について、 $a_n = 2n^2 - 3n + 4$ のとき、 a_1 から a_n までの和 S_n は?

$\{a_n\}$: 3, 6, 13, 24, ...

$S_n = 3 + 6 + 13 + 24 + \dots$ としてしまうと、計算が実質的に不可能である。

そこで

$\{a_n\}$: $2 \cdot 1^2 - 3 \cdot 1 + 4, 2 \cdot 2^2 - 3 \cdot 2 + 4, 2 \cdot 3^2 - 3 \cdot 3 + 4, \dots, 2n^2 - 3n + 4$

のように、あえて、 a_1, a_2, a_3, \dots の各項を和の形のままとっておくと。

$$S_n = (2 \cdot 1^2 - 3 \cdot 1 + 4) + (2 \cdot 2^2 - 3 \cdot 2 + 4) + (2 \cdot 3^2 - 3 \cdot 3 + 4) + \dots + (2n^2 - 3n + 4)$$

$$= \underbrace{2(1^2 + 2^2 + 3^2 + \dots + n^2)}_{\textcircled{1}} - \underbrace{3(1 + 2 + 3 + \dots + n)}_{\textcircled{2}} + \underbrace{(4 + 4 + 4 + \dots + 4)}_{\textcircled{3}}$$

①, ②, ③ の括弧の中の計算結果がわかれば、和 S_n が求まる

① の括弧内: $1^2 + 2^2 + 3^2 + \dots + n^2 = \sum_{k=1}^n k^2 = \textcircled{///}$ ← こゝが分かれば求まる。

② の括弧内: $1 + 2 + 3 + \dots + n = \sum_{k=1}^n k = \textcircled{///}$ ← こゝが分かれば求まる。

③ の括弧内: $4 + 4 + 4 + \dots + 4 = \sum_{k=1}^n 4 = \textcircled{///}$ ← こゝが分かれば求まる。

$\textcircled{///}$ の部分は、結果を公式として覚えて使うことになる。(一度は導きましょう)

(数列で出てくる公式は、仕組みや成り立ちを理解しておく。
別の場面で役立つことがある)

① 数列の和

数列の和の問題

1. 等差 or 等比は、公式を利用

2. 特殊な和

① 11°の法 (差の形を作る)

② S-rS法 (等差) × (等比) の和

3. 1, 2 以外は、 \sum 公式で計算

\sum 公式

1. $\sum_{k=1}^n c = nc$

2. $\sum_{k=1}^n k = \frac{1}{2}n(n+1)$

3. $\sum_{k=1}^n k^2 = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+1)$

4. $\sum_{k=1}^n k^3 = \left\{ \frac{1}{2}n(n+1) \right\}^2$

1 について、

$\sum (k \text{ の } 1 \text{ 次式}) \Rightarrow$ 等差の和の公式 or \sum 公式で計算

$\sum r^{(k \text{ の } 1 \text{ 次式})} \Rightarrow$ 等比の和の公式で計算

2 について、

① は $\sum \frac{\textcircled{///}}{k \text{ の } 2 \text{ 次式}}, \sum \frac{\textcircled{///}}{k \text{ の } 3 \text{ 次式}} \Rightarrow$ 部分分数分解で差の形を作る

$\sum (\text{根号} \sqrt{\textcircled{///}} \text{ を含む式}) \Rightarrow$ 有理化で差の形を作る

② は、 $\sum (k \text{ の } 1 \text{ 次式}) \cdot r^{(k \text{ の } 1 \text{ 次式})} \leftarrow$ 一般項が積の形は注意する
(等差) × (等比) の和

3 について、

$\sum (k \text{ の } 2 \text{ 次式}), \sum (k \text{ の } 3 \text{ 次式}) \Rightarrow \sum$ 公式で計算

数列の一般項 (第 n 項) や \sum の後ろの一般項を見て、

判断できるとよい。